



# 2年学年だより

発行日：令和5年11月30日（木）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

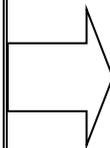
校長：遠藤 広樹 NO. 7

## 生徒会役員選挙が行われました！

11月14日（火）に新生徒会本部役員を選出する立会演説会が行われました。全校生徒の前に立ち、言葉を紡ぐ立会演説会。候補者たちにとって、それぞれの想いを熱く、そして丁寧に伝える素晴らしい場となりました。その言葉を聞く生徒たちの眼差しも真剣そのもの。同日に投票した結果、次期生徒会本部役員が以下の通り決定しました。

### 【10期】

生徒会長	3年1組：木村 響太さん
役員	3年3組：幸 奈菜帆さん
	3年4組：川口 紗楓さん
	3年4組：前田 祐樹さん
	2年1組：中山 大地さん
	2年4組：佐野 遥陽さん



### 【11期】

生徒会長	2年1組：中山 大地さん
役員	2年1組：松村 晴太さん
	2年3組：佐分 蒔乃さん
	2年4組：佐野 遥陽さん
	1年1組：松浦 朱里さん
	1年2組：野津 咲乃さん



今年度、生徒会本部は「 コミュる 」という生徒会目標を掲げ、全校生徒が学年に関わりなくコミュニケーションを図れるように努めています。今年度一般公開となった南高祭展示の部では、高校生と協力してスタンプラリー活動を行いました。また、昨年度に引き続き全校生徒が一堂に会して行う行事「全校交流イベント」を企画中です。昨年度の経験を踏まえ、今年度のイベントは各種委員会の委員長や学級委員の支援を受け、全校一体となって準備を進めています。

12月から3月までの4カ月、現役員と新役員の10人がともに活動することで、生徒会活動の引継ぎとパワーアップを目指していきます。

↑現（10期）

生徒会本部役員の皆さん

新（11期）↓

今後、本部役員が附属中生の代表として活動していきますが、附属中学校を作っていくのは全校生徒のみなさんです。これまで、附属中の先輩方が積み重ねてきた伝統を引き継ぎつつ、より良い学校にしていくために、一人ひとりが学校生活について、考えていくことが必要とされてきます。さまざまな生徒会活動（各種委員会活動や、クラスの係活動、学校行事など）の一つひとつがみなさんにとっての成長のチャンスです。創意工夫のある生徒会活動を通し、附属中生が心身ともにより大きく、たくましく成長することを願っています。



# 11期・生徒会本部役員！

## 中山大地

この度、次期生徒会長となりました、2年1組の中山大地です。この学校の大ちゃん代表として、全校の皆さんが毎日をenjoyできる大チャンスをつくってほしいと思います、立候補して、今日に至ります。自分は人と話すのが大好きで、挨拶はもちろん、相手としっかりコミュ（コミュニケーションをする）ことが大切だと思っています。相手とのつながりを大事にして、生徒会本部、クラス、学年、学校全体へとそのつながりの輪をどんどん広げていけるような活動にしていきたいと思っています。ここまで、生徒会本部として活動してきた経験を存分に生かして、自分含め、学校全体が、よりよい方向へ成長できるような、大ジャンプを果たせるように頑張るので、応援よろしくお願いします！



## 松村晴太

晴れて二年本部役員となりました松村晴太です。今までのご支援ありがとうございました。引き続き応援よろしくお願いします。

学校行事の開会式などで「思い出」という言葉が一回は出てきたと思います。このような大規模なものは思い出になりやすいですが、何回もできません。だったら、小さなことで思い出を作れたほうがはるかに幸せではないでしょうか。私は細かなことに焦点を当ててやっていきたいと思っています。そしてそれを企画に移すのは本部ではなく皆さんだと私は思っています。そっこのほうが楽しいと思うので、もちろん全力でサポートします。ですが、皆さんもやってみてください。生徒会だって仏ではないので、泣きますし、怒りますよ（笑）。どうか嫌な顔せず協力してくれると嬉しいです。



## 佐分蒔乃

こんにちは。お久しぶりです。または初めまして。生徒会本部役員を務めることになりました、2年3組20番、佐分蒔乃です。

選挙演説などでも申し上げたとおり、私はこの学校やみなさんのために何かしていきたいと思っています。今の生活や生徒会、学校を大きく変えるようなことはしたくありません。みなさんの生活にもうちょっと幸せがうまれる。生徒会がそれをできたら、素敵だと思いませんか？少しでもみなさんの役に立てるよう、一生懸命取り組んでまいります。よろしくお願いします。

この場をお借りして、選挙期間中応援して下さった先生方、友だち、支えてくれた家族、投票して下さったみなさんに感謝申し上げます。



## 佐野遥陽

選挙を運営して下さった選挙管理委員の皆さん、応援してくれた方、改めて本当にありがとうございました！！私は「開かれた生徒会」を作りたいと思い、立候補しました。約一年間、本部役員として活動させて頂いて、「生徒会本部はこんな事もしていたのか！」と驚くことができました。一番驚いたのは、生徒会室で傘をレンタルできる「南高傘」です。このように知っている嬉しくなる情報、生徒会、生徒会活動についても知ってもらうことで、「生徒会」がより身近な存在になり、意見も言いやすくなると思います。私は「開かれた生徒会」を作り、楽しく充実した学校生活を作ります！応援してくれた方の期待に応えられるよう、全力で頑張ります！！！！



# ～法教育講座～

1組 弓場悠翔 講師の弁護士の先生が言っていたことではあるけれど、犯人を有罪とするのは難しいと思った。根拠が曖昧だと、もしえん罪だったらということもあり、有罪にしにくいと思った。また、有罪ととれる根拠もあれば、無罪ととれる根拠もあり、そこから、判断するのが難しいと思った。また、片方の側に立ったときに、反対の意見に有利な証拠をどうやってつづすのか、というのも難しく、弁護士や検察官の大変さが身に染みて分かった。これがその人の人生を大きく左右する裁判ともなると、より大変だろうと思った。

1組 加藤希乃風 「有罪」か「無罪」かの基準は自分の常識だとわかった。常識というのは人それぞれなので、最終的に1つの判決を決定するのは難しいことだと感じた。常識はひとそれぞれだから、1人の考えで判決を下してしまったら偏った考えによる判決になってしまうので、複数人で話し合うことが大切だと考えた。「どうすれば自分の不利な点を潰せるか」というのは裁判以外でも応用できると思った。

2組 齊藤豪太 白川さんが犯人という確かな情報がないので、白川さんが本当に有罪か無罪か分からない。裁判官は、裁判のたびに、その数少ない情報でその人のその先の人生をどうするかを判断をせまられると考えると、とても難しい職業だなと思った。それは弁護士と検察官にも同じことが言え、これらになるには、確かな覚悟と、知識が必要と分かった。試験が難しいのも納得できます。

2組 堀内遼翔 とても面白かった。普段自分たちが見ているニュースなどでは「結果」しか報じられないため、そこに至るまでの「過程」を劇とはいえ、実際に体験できたのがとても新鮮だった。評議をする過程で、証拠の重さや有罪無罪の基準を数値に表せないのが難しいと感じた。自分の考えで被告人の人生を変えかねないため、実際の裁判ではどれほど緊張感があるのだろうかと思った。また、弁護士の仕事に少し興味が湧いたため、調べてみたい。

3組 梅原瑠一 今回の講座で改めて、裁判員や弁護士、検察官の方々はとても凄い人達なのだと感じました。班の中で有罪か無罪かを判断する時に、同じ有罪なのに根拠が違ったり、意見共有の際に有罪と無罪にキレイに分かれたりと、人それぞれ意見が違う中判決をすることはとても難しいと感じました。また、判決の根拠となる部分を見つける所もとても苦戦し、大変でした。専門家の方々には凄いと感じました。これからは裁判のことに興味を持ちながらニュースを見ていきたいです。

3組 川口悠 もしも犯人は他ににいるのに有罪にしてしまったら、その人の人生を大きく変えてしまうし、その人が犯人なのに無罪にしてしまったら、被害者の方が報

われないしと人の人生が大きく関わっていて、慎重に、いろいろな可能性を考えなければいけないのだと改めて感じました。また、様々な視点から考え判断するために、検察官、弁護士、裁判官と3つの役割があるのかなと思いました。

4組 山田蓉佳 今日の講座を受けて、裁判を通し判決にいたるまでにとてもたくさんの時間がかかることがよく分かりました。被告人の相談に乗ったり、時にはもめてしまったりするなど、弁護士の仕事は本当に大変そうだなと実感しました。今日議論を実際に試みて、自分が考えていなかったようなことを知ることができるので、議論の大切さがよく分かりました。これから授業で話し合いをすることがあると思うので、今回の講座をいかし、学びを深めていきたいです。

4組 増永衣純 自分がいろいろな面から見た結果で有罪か無罪か決めたと考えていても、他の人が自分の見えなかった面を見えていたり、他の結論を出して、やっぱり話し合いは大事だなと思った。また、相手の意見の弱いところ、ふれていないところを探して討論するのはとても楽しかった。最終的に相手の意見がいいなとなってしまって悔しかったので経験則を増やしていきたいと思ったし、すごく討論が上手い人がいたから、国民も刑事事件や司法などに関わっていった方がいいと感じた。

模擬裁判を実演してくれた村上和葉さん、三浦颯真さん、ご協力ありがとうございました！

みちをのぼり「上を向いて…」

先日の法教育講座では活発な議論の様子に弁護士の先生が驚嘆していました。また11月には授業研究会があり、多くの方が来校しました。やっぱり南高附属中は注目されていますね。自分たちが「積み重ねてきた力」や「注目されていること」に自信と誇りを持って過ごしていってほしいと思います。